



本日の
プログラム

コロナ明けを契機に改めて伝えて欲しい自分なりのロータリー 河原昌文 会員増強委員長

今、大学院留学する理由 財団奨学生 堺 友里さん

この度、国際ロータリー第2510地区奨学生に選出頂き、今夏よりマサチューセッツ工科大学へ都市計画修士号取得を目的とした大学院留学を予定しております。本日の例会でも多くの方から温かなお言葉をかけて頂き本当に感謝申し上げます。ご支援頂く皆様へのご挨拶を兼ねて、自己紹介や志望動機等をお話させて頂きました。

自身は高校時代までを札幌市で過ごし、大学入学を機に地元を離れました。学生時代は、仙台で土木工学を学び、在学中に東日本大震災に見舞われました。校舎が被災したため新校舎が建てられましたが、研究室の場所が移動したことや敷地内の人の動線が変化し、コミュニティの在り方にも変化があり、インフラの人々の生活への大きさを肌で感じる経験となりました。また、毎日のように続く余震、原子力発電所の影響等の不安の中、それでも、復旧・復興のために奔走する教授陣や土木技術者、海外からの研究者、留学生、土木工学専攻の学生でありながら今は何もできないことを嘆く学友の姿を間近に見るうちに、いつか自分も日本社会、国際社会に貢献できればと、防災分野を軸にキャリアを歩みたいと考えるようになりました。

大学卒業後は、現在に至るまで土木行政に携わってきました。社会人になりたての頃、将来深刻な少子高齢化が懸念される地域の強靭性を高めるためのインフラ計画立案等に従事し、地域社会の持続可能性を高めることを念頭に、防災・減災に取り組むことの難しさと重要性を学びました。その後、かねてより自身も防災分野において国際社会へ貢献したいと考えていたことから、ジュネーブにある国連防災機関(UNDRR)勤務を希望し、半年間働くこととなりました。UNDRRは、国連組織の防災担当部局として、各国の防災政策実施支援や防災に関する国際的な指針の実施推進等を行う組織であり、自身も各国及び関係機関とともに普及啓発イベント開催やガイドライン作成等を行いました。その過程で、防災施策実施に必要な技術者確保や資金調達が困難である等の他国の現状を知るとともに、脱炭素化や気候変動対策等社会の持続可能性向上

のために必要な取り組みに対し、多様なアプローチを行う各国・関係団体の状況を知りました。

今後長期的に当該分野で日本社会及び国際社会へ貢献するためには、一度日本という枠組みを外れ、社会の持続可能性向上について、腰を据えて学ぶ必要があるのではないかと考え、今般大学院留学を目指すに至りました。

当方の留学予定先であるマサチューセッツ工科大学(英名:Massachusetts Institute of Technology, 通称:MIT)は、米国マサチューセッツ州ケンブリッジ市に位置する私立工科大学であり、また周辺にはハーバード大学やボストン大学、タフツ大学等多くの大学・研究機関が集結していることから、その環境はLiving Laboratoryとして名を馳せています。予定所属学科はDepartment of Urban Studies and Planning, School of Architecture and Planningであり、ここで2年間の都市計画修士課程に在籍予定です。

大学選びについては、可能な限りの情報収集に努め、プログラム内容、校風、周辺環境、教授陣の研究分野、在籍する学生の志向等を鑑み、自ずとMITが第一志望となりました。世界中から集まる学生、研究者、実務者と過ごす2年間がどのようなものになるか、どのような学びを得ることができるか、今から大いに期待しております。

留学が実り多きものとなるよう、留学開始に向け今からできる限りの準備をするとともに、留学後も引き続き持続可能で強靭な社会の構築に貢献すべくしっかりと勉学に励みたいと思います。最後に、今回の留学に際し、当該地区の皆様より多大なるご支援を賜りここに深謝の意を表します。



■本日のロータリーソング

奉仕の理想

2023-2024年度 国際ロータリーのテーマ

「世界に希望を生み出そう」

国際ロータリー会長:ゴードンR.マッキナリー

